

仙台市市民活動サポートセンター
 (指定管理者：特定非営利法人せんだい・みやぎ NPO センター)

「マチノワ WEEK」について

1 実施概要

イベント名：マチノワ WEEK まちづくりのアイデア広場「触れる」「交わる」「考える」

日時：平成 28 年 11 月 3 日（木・祝）～6 日（日）

会場：仙台市市民活動サポートセンター

概要：市民活動、地域活動、ソーシャルビジネス等、様々なまちづくりのアイデアをテーマとした 17 のプログラムを日替わりで実施し、多彩な取り組みをショーケース的に発信。多様な主体が仙台のまちづくりについて考え、意見を交わし、交流を深める機会を提供した。

実績：来場者数延べ 1,162 名

主催：仙台市市民活動サポートセンター（指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター）

共催：公益財団法人仙台市産業振興事業団（仙台市起業支援センター“アシ☆スタ”）、地域メディアネットワーク検討会、公益財団法人仙台市市民文化事業団（せんだい演劇工房 10-BOX）、公益財団法人せんだい男女共同参画財団、仙台ミラソン実行委員会、東北大学高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター、東北学院大学地域共生推進機構（順不同）
 ※その他仙台市の関係部署（プロジェクト推進課、防災環境都市推進室、地域産業支援課、各区まちづくり推進課）と連携して実施

2 当日の様子



「地域メディア公開編集会議 共感を生み、伝えるメディアをつくろう」



「アシ☆スタカフェトーク×SENDAI Social Innovation Night」



「NETWORKING TIME ヨナヨナ」



「まちづくり活動団体情報交換会 おりませトーク」



「マチノワークショップ&カフェ」



「クロージングイベント『一人ひとりの創造力と協働まちづくり』」

- ・参加者の年代としては、20代から40代を中心に幅広い年代の方にご参加いただきました。
- ・参加者の属性としては、サポセンの主な利用者である市民活動団体の関係者が3割程度を占め、次いで個人の方の参加が多く、地域団体や企業等の関係者にもご参加いただきました。
- ・サポセン初来館者が2割近くに達した。既存広報に加え、マスコミ、共催者やゲストの協力、SNSの活用、看板設置、地下鉄ポスター掲示等の取り組みの効果があったと考えられる。
- ・プログラムの豊富さは評価が高く、複数の企画に参加したという声も頂いた一方、参加したいプログラムの時間が重なったという声も頂いた。

3 振り返り

①多彩な市民力の掘り起こしと関係資本の蓄積

- ・市民活動、地域活動、ソーシャルビジネス、学生活動、復興、防災など、幅広いテーマの関心者層にご参加頂いたことにより、まちづくりに関わる人材同士が集まり交流する機会となったことで、新プロジェクトのアイデア交換が行われるなど、まちづくりに関わる方の関係資本が蓄積されたと考えている。

②関係機関との連携の具体化

- ・サポセンでは、従前より関係機関との連携を意識した取り組みを実施してきたが、本企画を実施するにあたって、幅広いテーマを取り上げるため関連機関（共催団体・仙台市各課等）にもご協力いただいた。本企画を契機に関連機関とサポセン間の関係性がさらに深まり、支援機関側の企画への参加打診を頂くなど、事業ベースの具体的な連携体制を築くきっかけになったととらえている。

③施設としての可能性の模索

- ・施設の使用方法に関して、1階と5階をイベントスペース化するなど、新たな可能性を模索した。特に1階は、ワークショップやカフェにより賑やかな雰囲気が醸し出され、施設の外からも1階の賑やかな様子が感じられるなど、施設のポテンシャルを引き出すことができた。
- ・参加者アンケートより、本企画に対して高い評価をいただいたものと認識している。また、事業内容のみならず、本事業を具現化したスタッフの調整力や広報デザインの質等、指定管理者のノウハウが発揮できたものと考えている。